

科研費

科学研究費補助金
Grants-in-Aid for Scientific Research

2008 (平成20年3月)

新たな知の創造
～世界をリードする知的資産の
形成と継承のために～

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology (MEXT)

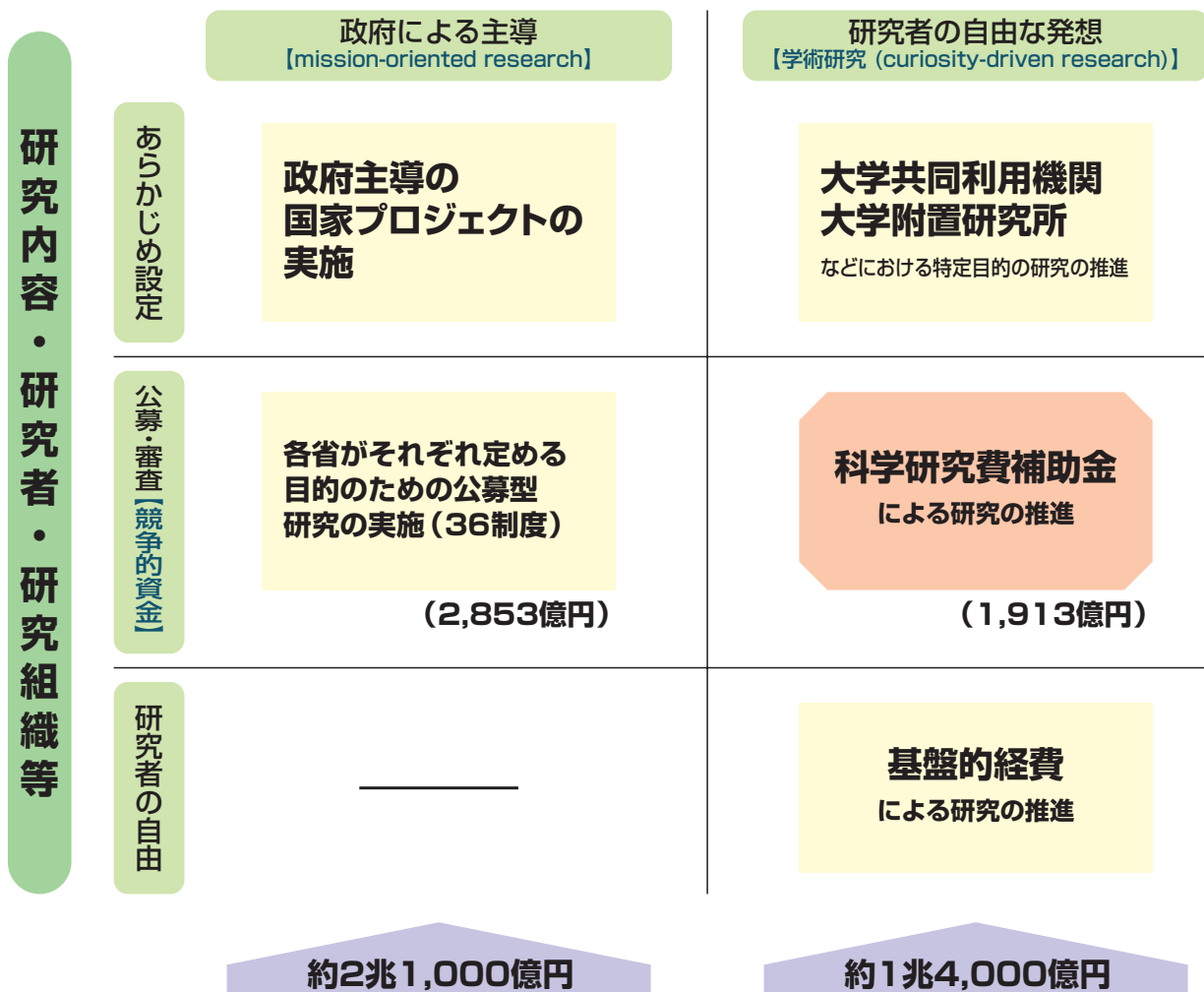
独立行政法人 日本学術振興会

Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)

■ 科学研究費補助金（科研費）とは

- 政府による研究推進策（平成19年度総予算額は約3兆5千億円）には、様々なタイプがありますが、これらの中で「科学研究費補助金」（科研費）は、「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を対象とした「競争的資金」です。
- 科研費は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」を対象としています。
- 科研費の審査は、延べ約6千人の審査委員によるピア・レビュー（専門分野の近い複数の研究者による審査）により行われています。
- 科研費の規模は1,913億円（平成19年度）であり、政府全体の科学技術関係経費の約5%、競争的資金全体の約40%を占めています。

イニシアティブ



■ 未来の技術革新の芽を育む科研費

■ 科研費による研究の多くは、短期的な目標達成よりも、むしろ長期的視野に立ったものであり、社会にブレークスルーをもたらす画期的な研究成果を多く生み出しています。研究の萌芽期には注目を浴びていなかった研究課題についても、科研費は広く研究をサポートしており、それらが今日、私たちの暮らしに大きく役立っているのです。

研究課題

研究成果

「有機化合物の光電解の研究」
(昭和41年度～ 各個研究) 本多健一(東京大学名誉教授)

電気分解に光をあてることによる新しい反応の創出

「励起状態の電極反応に関する研究」
(昭和48年度～ 奨励研究(A)) 藤嶋昭(東京大学名誉教授)

半導体酸化チタンへの光照射効果の解明

水の光分解電極反応の発見と環境浄化としての光触媒への展開

・セルフクリーニング機能をもつガラス・タイル
・病院の抗菌タイル などに実用化

「磁気薄膜による高密度情報記録の研究」
(昭和42年度～ 機関研究)

光磁気効果等を用いた磁気記録作用の解明

岩崎俊一(東北工業大学長)

垂直磁気記録の実現

垂直磁気記録方式による小型大容量のHDDの実用化
・パソコンのハードディスク
・高性能携帯機器、携帯音楽プレイヤー など

「神経系細胞培養におけるSSPEウイルスの増殖様式」(昭和56年度～ 一般研究(C))

SSPEの発病機構を神経細胞レベルで解析

山内一也(東京大学名誉教授)

プリオン病の発病機構の解析

BSE(牛海綿状脳症)などのプリオン病の発病機構を解析

「A型インフルエンザウイルスの感染性の抗体による中和の機序に関する研究」
(昭和58年度～ 一般研究(B))

抗体がウイルスの感染性を中和する新規メカニズムを発見

喜田 宏(北海道大学教授)

家畜・ヒトの新型インフルエンザウイルスの出現機構の解明と感染防止

・鳥インフルエンザの感染拡大を防止
・家畜衛生、公衆衛生、予防医学に大きく貢献

「ボツリヌス神経毒素による新しいGTP結合蛋白の発見とその生理機能の解析」
(昭和63年度～ 重点領域研究)

細胞の形態形成・運動の分子スイッチRhoの発見とその作用発現機構の解明

成宮 周(京都大学教授)

高血圧、癌化、癌細胞の転移・浸潤などに働く経路を発見

様々な生理、病態で働く細胞の基本原理の発見につながる
・基礎医学、臨床医学、薬物開発に大きく影響

■ 科研費への応募要件

《研究者に係る要件》

- ① 指定された研究機関に、当該研究機関の研究活動を行うことを職務に含む者として、所属する者であること（有給・無給、常勤・非常勤、フルタイム・パートタイムの別を問わない。また、研究活動以外のものを主たる職務とする者も含む）
- ② 当該研究機関の研究活動に実際に従事していること（研究の補助は除く）

《研究機関に係る要件》

- ③ 科研費が交付された場合に、その研究活動を、当該研究機関の活動として行わせること
- ④ 科研費が交付された場合に、機関として補助金の管理を行うこと

■ 科研費の「研究種目」一覧

科研費には、多様な学術研究を行う様々な研究者のニーズに応じるため、「研究種目」と呼ばれるカテゴリーが設けられています。

研究種目等	研究種目の目的・内容
科学研究費	
特別推進研究 ※	国際的に高い評価を得ている研究であって、格段に優れた研究成果をもたらす可能性のある研究（期間3～5年、1課題5億円程度を目安とするが、制限は設けない）
特定領域研究 *	我が国の学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取り組みが必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域を特定して機動的かつ効果的に研究の推進を図る（期間3～6年、単年度当たりの目安1領域 2千万円～6億円程度）
新学術領域研究	（研究領域提案型） 研究者又は研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させる（期間5年、単年度当たりの目安1領域 1千万円～3億円程度） （研究課題提案型） 確実な研究成果が見込めるとは限らないものの、当該研究課題が進展することにより、学術研究のブレークスルーをもたらす可能性のある、革新的・挑戦的な研究（期間3年、単年度当たり1千万円程度）
基盤研究 ※	（S）1人又は比較的小人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究（期間5年、1課題5,000万円以上2億円程度まで） （A）（B）（C）1人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究（期間3～5年） （応募総額によりA・B・Cに区分） （A） 2,000万円以上5,000万円以下 （B） 500万円以上2,000万円以下 （C） 500万円以下
萌芽研究 ※	独創的な発想、特に意外性のある着想に基づく芽生え期の研究（期間1～3年、1課題500万円以下）
若手研究 ※	（S）42歳以下の研究者が1人で行う研究（期間5年、概ね3,000万円以上1億円程度まで） （A）（B）37歳以下の研究者が1人で行う研究（期間2～4年、応募総額によりA・Bに区分） （A） 500万円以上3,000万円以下 （B） 500万円以下 （スタートアップ）研究機関に採用されたばかりの研究者が1人で行う研究（期間2年、年間150万円以下）
奨励研究 ※	教育・研究機関の職員、企業の職員又はこれら以外の者で科学研究を行っている者が1人で行う研究（期間1年、1課題100万円以下）
特別研究促進費	緊急かつ重要な研究課題の助成、研究助成に関する実験的試行
研究成果公開促進費	
研究成果公開発表	研究者グループ等による学術的価値が高い研究成果の社会への公開や国際発信の助成
学術定期刊行物 ※	学会又は、複数の学会の協力体制による団体等が、学術の国際交流に資するために定期的に刊行する学術誌の助成
学術図書 ※	個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成
データベース ※	個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、公開利用を目的とするものの助成
特定奨励費	学術研究諸団体が行う学術的・社会的要請の強い特色ある研究事業の助成
特別研究員奨励費 ※	日本学術振興会の特別研究員（外国人特別研究員を含む。）が行う研究の助成（期間3年以内）
学術創成研究費 ※*	科学研究費補助金等による研究のうち特に優れた研究分野に着目し、当該分野の研究を推進する上で特に重要な研究課題を選定し、創造性豊かな学術研究の一層の推進を図る（推薦制 期間5年）

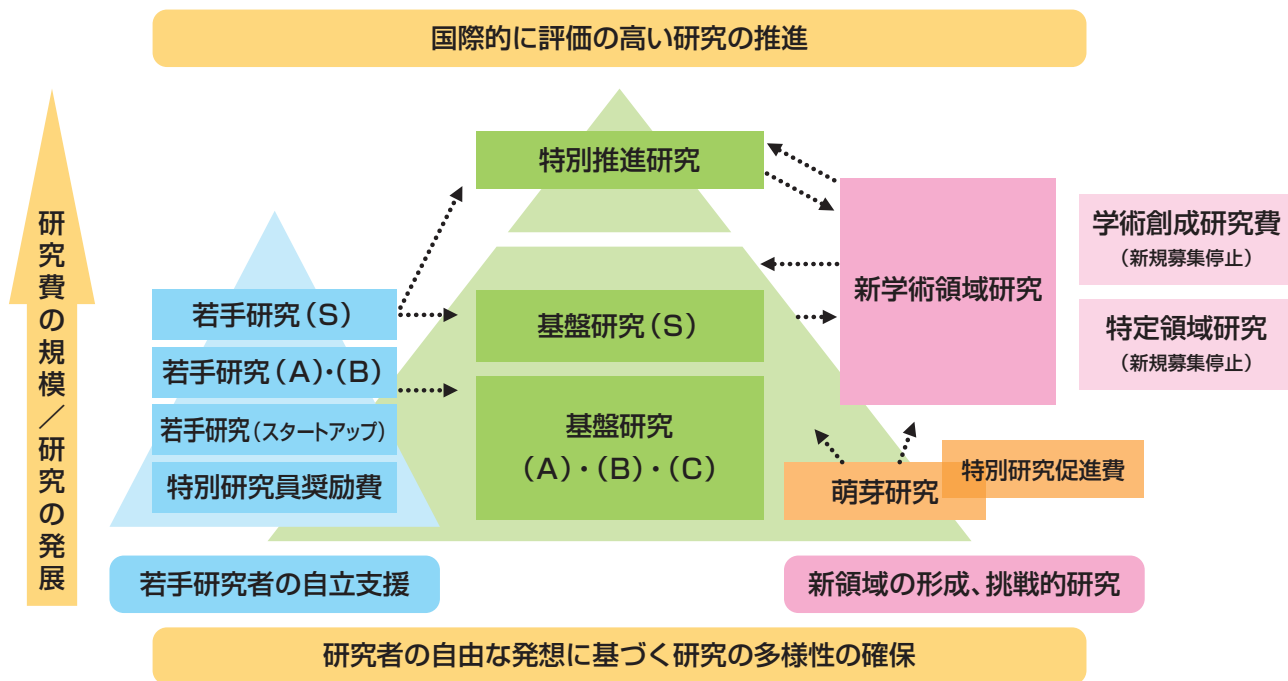
※印の研究種目の審査は、日本学術振興会が行っています。

*印の研究種目は、新規募集を停止しています。

（平成20年度）

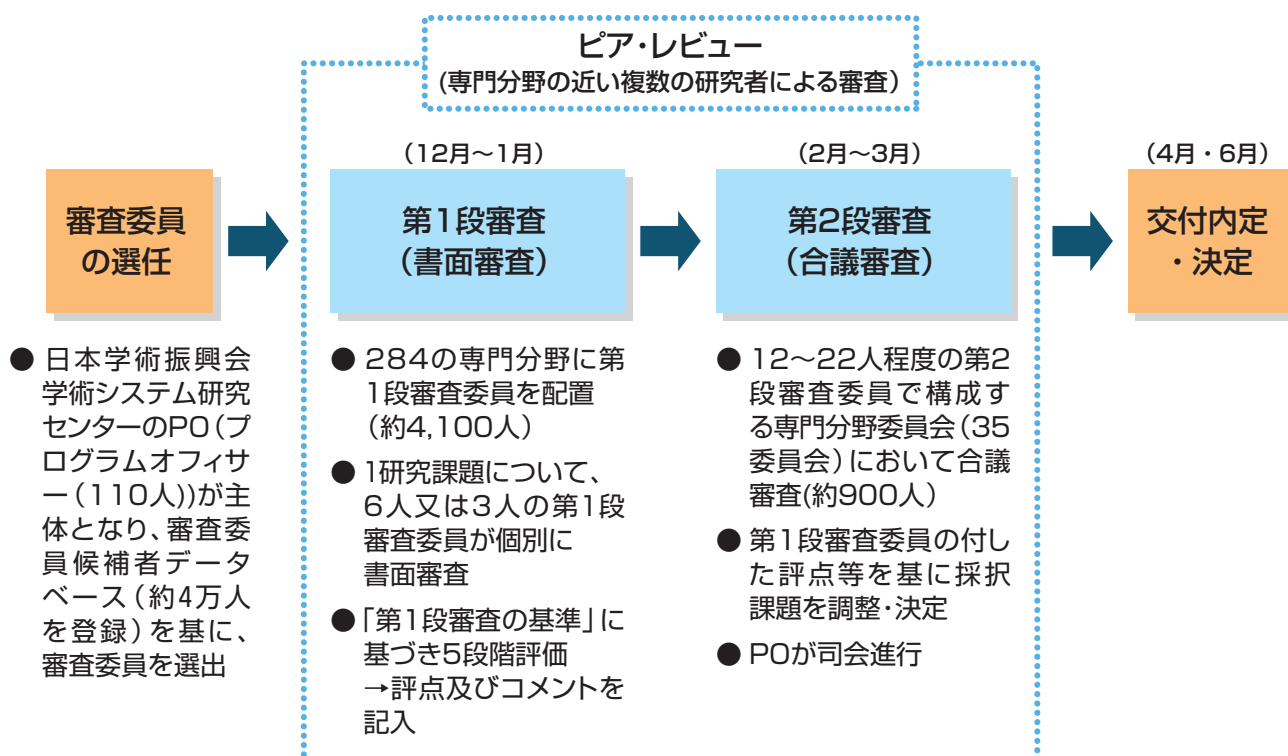
■ 科研費の研究種目

科研費の主な研究種目の位置付けは、下図のようになっています。研究の段階や規模などによってそれぞれの状況に応じた研究種目が設定されています。



(平成20年度)

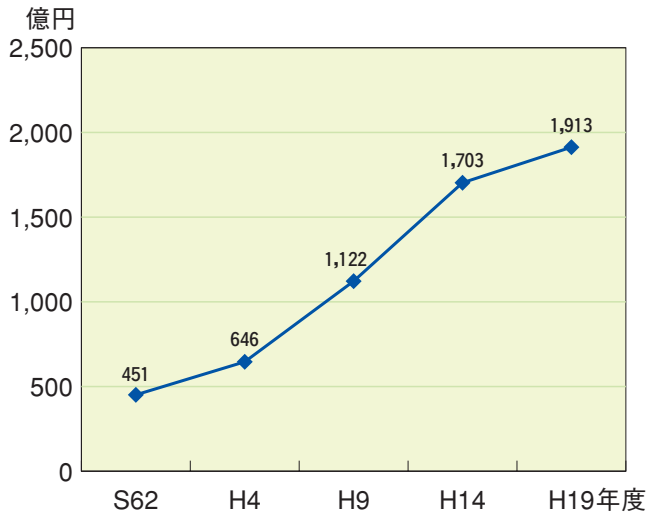
■ 科研費の審査 (「基盤研究」の場合)



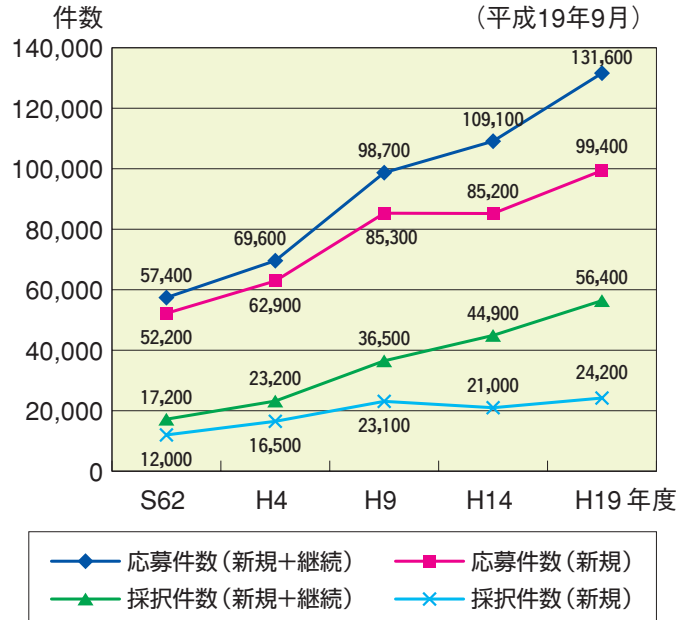
■ 科研費の現状

■ 科研費の予算額は年々拡充されており、多様な分野の学術研究をサポートしています。多くの研究者のニーズを満たし、学術の振興を図るため、更なる予算の拡充に努めています。

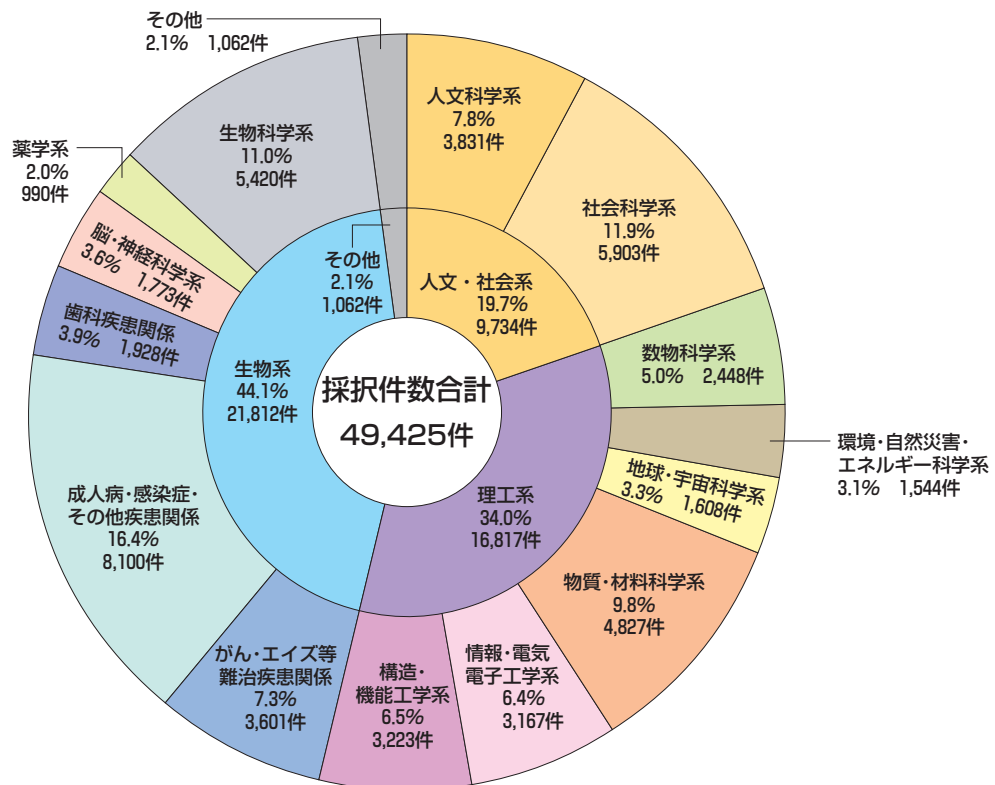
● 予算額の推移



● 応募件数と採択件数の推移



● 各研究分野への配分結果 (件数) (平成19年9月)



この円グラフは、平成19年度科学研究費補助金（新規採択+継続分）のうち、「奨励研究」「研究成果公開促進費」及び「特別研究員奨励費」を除く研究種目の採択課題（49,425件）について分類したものです。
 なお、科学研究費補助金の配分は、分野ごとの応募件数・応募金額に応じて、採択件数・配分額を算出する方式をとっています。

■ 科研費の効率的な使用のために

科研費は、研究をスムーズに行うための柔軟な使用が可能である一方、国民の貴重な税金でまかなわれているため、その使用等が正しく行われるよう様々な取組を行っています。

スムーズな研究遂行のために

- ◆「新規」研究については内定通知後直ちに、「継続」研究については4月1日から使用できます。
- ◆当初設定した経費の使用内訳（物品費・旅費・謝金等・その他）は、一定の範囲内で自由に変更が可能です。
- ◆当初予想し得なかった要因により、年度内に予定している研究が完了しない見込みとなった場合は、所定の手続を経て、研究期間を延長するとともに補助金を翌年度に繰越すことができます。
- ◆出産・育児のために研究活動を中断する場合は、所定の手続を経て研究期間を延長し、研究を再開することができます。

適正な使用を確保するために

- ◆科研費の使用に関するルールを分かりやすく解説したハンドブックを全研究者および全研究機関向けに作成・配布しています。
- ◆研究機関を対象に、毎年定期的に「全国レベル」「地区レベル」「各研究機関レベル」での説明会・研修会等を開催しています。
- ◆科研費は、研究者の所属する研究機関が管理することとなっており、研究機関に対して科研費の適正な使用を確保するための管理体制の強化を促しています。
- ◆不正な使用や論文のねつ造等の不正行為を行った研究者には、一定期間科研費が交付されません。また、科研費以外の競争的資金で不正な使用等を行った場合も、一定期間科研費が交付されません。
- ◆研究機関による経費管理が不適切な場合には、研究機関にペナルティーを科す場合もあります。

■ 科研費による研究の成果へのアクセス

■ 科研費による研究の成果は、次のような方法で見ることができます。

国立情報学研究所 (NII) のホームページにおける「研究実績の概要」の検索

NII ホームページの情報検索サービス (<http://seika.nii.ac.jp>) を利用することにより、科研費による「研究実績の概要」を見ることができます。

国立国会図書館関西館における「研究成果報告書」の閲覧

科研費の一部の「研究種目」を除き、科研費による研究が終了した後に、「研究成果報告書」が研究者によって作成され、国立国会図書館関西館に納本されています。この「研究成果報告書」は、同館で広く一般の方々を対象とした閲覧等の利用に供されています。

ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI の実施

我が国の将来を担う生徒（主に中・高生）を対象として、科研費による研究成果を分かりやすく発信し、その知的好奇心を刺激するとともに、心の豊かさや知的創造性を育むことを目的として実施しています。（平成 19 年度は、全国の大学で 112 件を実施しています。）

お問い合わせ先

文部科学省 研究振興局（学術研究助成課）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL 03-5253-4111(代) (内線4095, 4087, 4094, 4328, 4316, 4317) (科学研究費等)

ホームページアドレス http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm

独立行政法人 日本学術振興会 研究事業部（研究助成第一課・第二課）

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

TEL 03-3263-4682, 4758, 4798, 0980, 1878, 4326, 4632 (科学研究費)

03-3263-4926, 4920 (研究成果公開促進費)

03-3263-4254 (学術創成研究費)

ホームページアドレス <http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>